

第8章 ふるさと生活圏からみた人口動態と将来の人口推計

50市町村レベルで1960年から5年おきの人口動態および、それに対応する形で、204市町村レベルでの、1995年から5年おきの人口動態を検討する。あわせて、2010年から2015年の人口変化をもとにした次の5年おきの人口推計も行った。推計法については、後述する。

下表サンプルのように、50市町村については、1960年からデータは入手できるので、いくつかの代表年を取り上げ、2035年、2040年の値を推計し、1960年の人口を100とした場合の指数も出している。

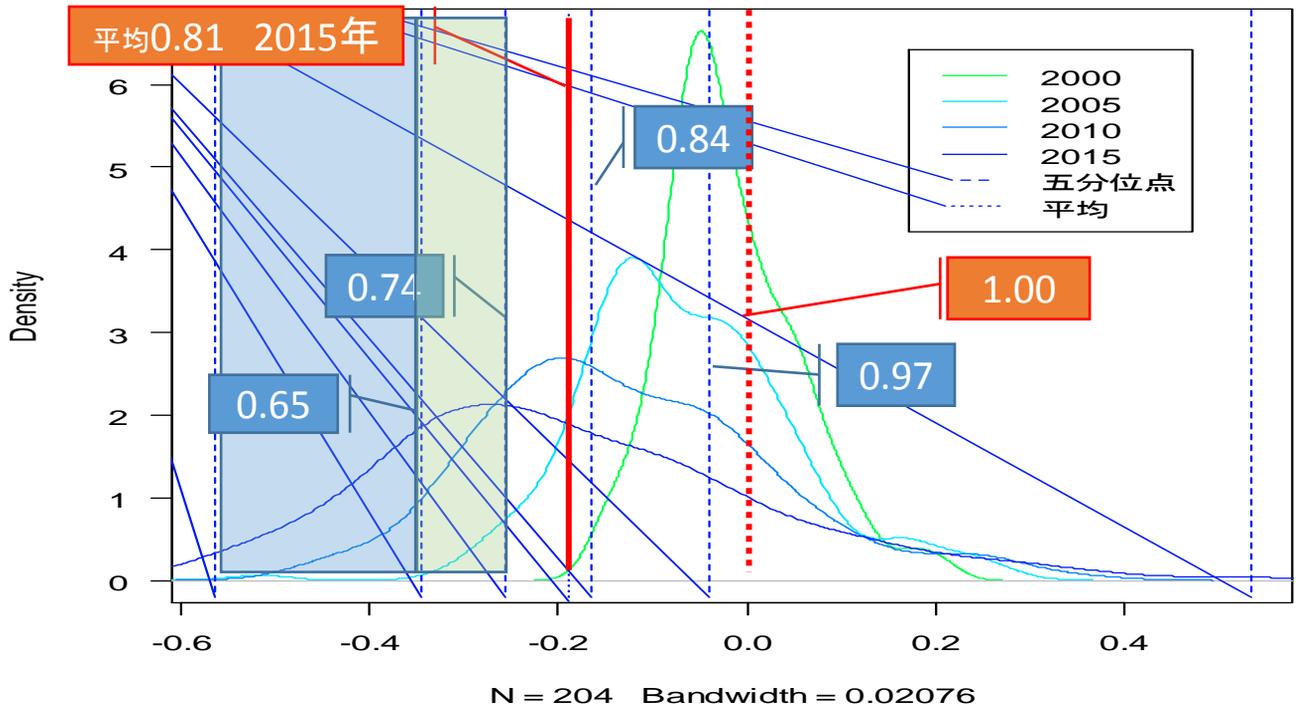
一方、204市町村レベルでは、1995年からの人口が出せるので、これも人口推計をしながら、1995年の人口を100とした場合の指数も出している。

市町村名			国勢調査人口(人)				推計人口(人)		人口増減率(%)				
現市町村	50市町村	204市町村	1960	1975	1995	2015	2035	2040	1960	1995	2015	2035	2040
和歌山市	和歌山市		285,155	389,717	395,016	364,960	327,477	318,641	100	139	128	115	112
			100	137	139	128	115	112		100	92	83	81
		和歌山市 加太町			284,480	259,454	222,438	211,958		100	91	78	75
					4,515	2,887	1,212	934		100	64	27	21

下図は、1995年を100とした場合の、2015年人口の指数の分布を示したものである。1.00が増減なしで、204市町村の平均値が、0.81となっている。各年度の指数のばらつきを、確率密度化した曲線を描いているが、2015年の曲線が一番左で山の低くなった形のものに該当する。そしてこの曲線の分布を5分位に分けたときのそれぞれの小さいほうからの値が、0.65、0.74、0.84、0.97となっている。

次頁からの表の見方として、2015年の人口指数が65以下の場合には赤信号、66-74の場合には黄信号であること。そしてこの場合将来推計人口の指数は、2040年を見た場合、20台以下の値となり、非常に厳しい値になることが見て取れる。

県内各明治行政村の1995年比の2000-2015年の人口増減率の確率密度



なお、人口推計の方法については、仕様書に記しているのので、そちらを参考いただきたい。

